



長門の話題

Topics

観光オフシーズンに集客の仕掛けを

幻想的な「音信川うたあかり」

2月15日(金)、16日(土)の2日間、長門湯本温泉の音信川沿いで、明かりを楽しみイベントが開催されました。これは観光まちづくりの推進のため、観光オフシーズンである冬季の集客を図るための社会実験として行われたもので、長門市出身の童謡詩人金子みすゞの詩を題材に、桜

や紅葉の形をした明かりのモチーフが音信川沿いに設置されました。きらきら橋にはやきとりやおでん、ホットワインなど温かい飲食を提供する屋台も設置され、来場者は幻想的な明かりを写真に収めたりしながら、冬の音信川でのひと時を楽しんでいました。



▲住民らが制作した明かりのモチーフが水面に映る

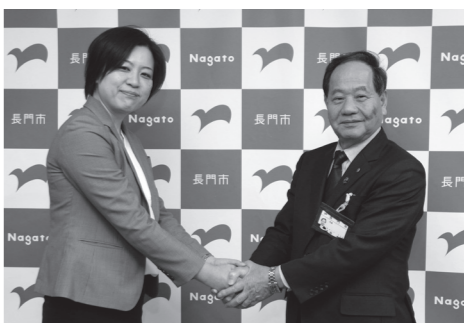


▲温かい飲食が用意され、食事を楽しむ来場者も多かった

「しごと創出担当」として雇用を生み出す

地域おこし協力隊が着任

2月15日(金)、「しごと創出担当」として、周南市出身の岩本絵梨子さんが新たに地域おこし協力隊として着任し、市役所で辞令交付式が行われました。岩本さんは地元企業の情報収集・発信や就職のマッチング、キャリア教育の推進、新たな仕事の創出のための活動などに取り組まれます。



▲市内の企業や仕事と人をつなぐ役割に期待

通まちづくり協議会が講演会を主催

前海士町長が語るまちづくり

2月16日(土)、通漁村センターでまちづくり講演会が開催され、約100人が聴講に訪れました。前海士町長の山内道雄氏が「ないものはない、離島からの挑戦」と題して講演を行い、離島の地域活性化の取組について、16年間の町政経験をもとにまちづくりの心構えなどを語りました。



▲「自分たちのまちは自分たちで守る」と語る山内氏

長門のPeople

みんなで食事して、人のぬくもりを感じて欲しい

荻隆宣さん

(ながとチャイルドサポート協議会代表)



食事を通じて、子どもたちに多くの人のぬくもりを贈る「深川ルンルン食堂」。この食堂を運営するのが荻隆宣さんです。「ひとりぼっちじゃないんだ」ということに気づいて欲しいですね。子どもたちに。支えがあるんだと思ってもらえれば、厳しい人生を乗り越えられると思う。また、子どもたちが大人になった時に誰かを支える存在になってもらえれば」と深川ルンルン食堂の趣旨を述べられました。

開催日には、企業から食材の提供が行われ、約20人の支援者が調理や配膳、駐車場の誘導などにあたります。参加者は多い時で100人近くになるそうです。

深川ルンルン食堂

開催日時 毎月第4土曜日

※詳細は「深川ルンルン食堂 ツイッター」で検索

場所 東深川江良の光浄寺

利用料

子どもとその保護者 無料

一般 300円



▲考えに共感した多くの人が深川ルンルン食堂のサポートを行う

旬な人

長門の食を活かした旅を

2月14日(木)、地域ならではの食・食文化をその地域で楽しむことを目的とした「フードツーリズム」をテーマに、地域活性トレンドセミナーが長門市しごとセンターで開催され、市内外から約80人が聴講に訪れました。

一般社団法人日本野菜ソムリエ協会の福井栄治理事長をファシリテーターに、同協会理事の王理恵さん、(株)CUSINE KINGDOM代表取締役の中沢美佐子さん、N

PO法人つなぐ理事長の岡藤明史さん、大谷恒雄副市長がパネリストとして登壇。フードツーリズムの概要や長門市の魅力を活かしたフードツーリズムの可能性、地域課題を食で解決するコツなど、それぞれの立場から意見が発表されました。

ファシリテーターを務めた福井さんは「食の魅力をコンテンツ化し、消費財をサバイブス財に変えることで、地域が活性する」と述べました。



▲「長門は食でもっと活性化できる」と福井氏



▲全国の事例など食を活かした地域活性化を議論